

令和8年5月28日

能登半島地震で発生した富山湾海底地すべりや乱泥流 による水産資源への影響評価調査の実施について

5月31日(日)から6月12日(金)までの期間、富山県および共同研究機関は、国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)が保有する有人潜水調査船「しんかい6500」を用いて、能登半島地震に伴う海底環境とベニズワイガニ資源への影響評価にかかる調査を実施しますのでお知らせします。

1. 目的

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により、富山湾および能登半島東北沖の海底では大規模な海底地すべりの発生が確認されています。これに伴う海底環境の急激な変化は、深海生物の生息場に影響を及ぼした可能性があります。特に、富山湾において重要な水産資源であるベニズワイガニについては、生息環境の攪乱による資源への影響が懸念されており、地震後の現状と資源の回復過程を把握することが課題となっています。

本調査では、地震により誘発された海底地すべりとそれに伴って発生した乱泥流^{*}に着目し、海底堆積物の構造・分布・規模を詳細に把握します。また、深海に生息するベニズワイガニを対象として、生息密度および個体サイズを定量的に解析することにより、地震発生後における水産資源の変化と回復過程を明らかにすることを目的としています。

^{*}海底において、海水と堆積物が混ざり合った高密度流が浅い水域から深い海域に流れる現象のこと

2. 調査船



深海潜水調査船支援母船「よこすか」



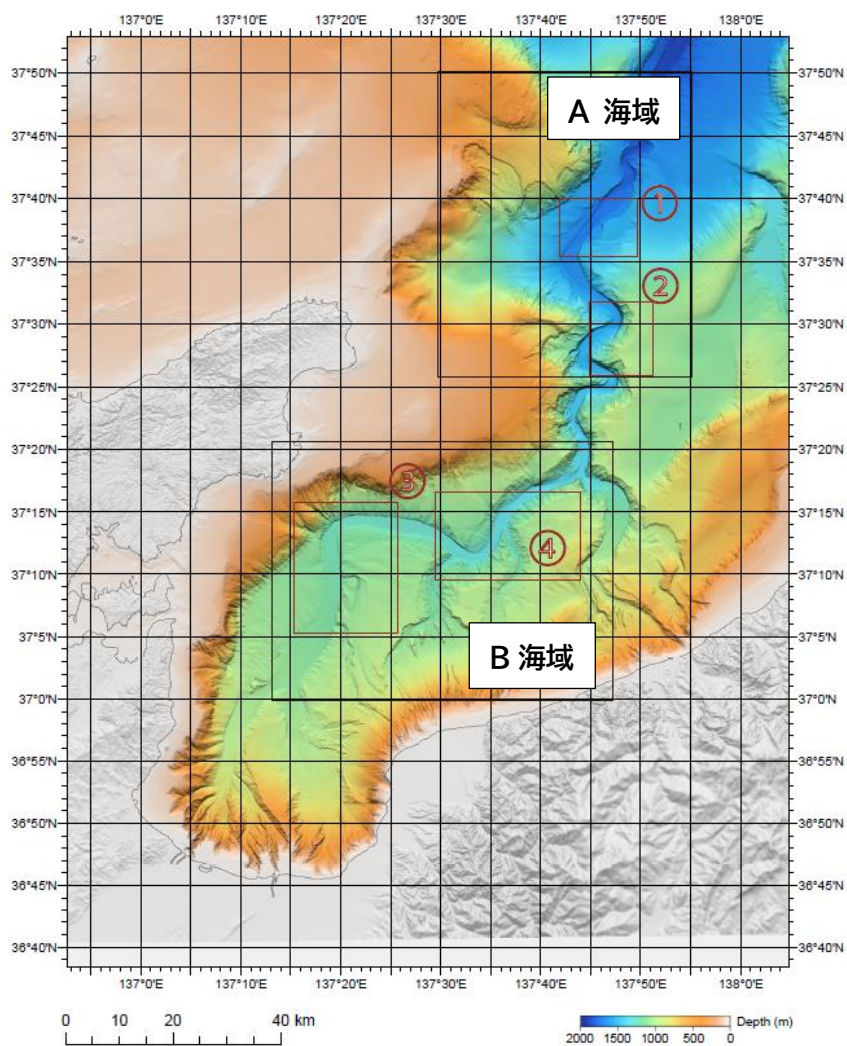
有人潜水調査船「しんかい 6500」

国立研究開発法人海洋研究開発機構が保有する調査船

3. 日程

作業日	動静/調査海域	実施内容	備考
5/31	横須賀本部	出港	しんかい 6500 の潜航の際には、 生物・堆積物採取
6/1~3	回航/富山湾付近	回航	
6/4	} ディープ・トウ による海底観測	夜間は航走観測	
6/5		夜間は航走観測	
6/6		しんかい 6500 による潜航	
6/7		夜間は航走観測	
6/8	①~④のうち3海域	夜間は回航	
6/9~12	回航/横須賀本部	回航/入港	

4. 潜航海域(下図①~④)



□黒枠:調査海域 □赤枠:潜航海域
 A 海域:能登半島北東沖(水深:113~1891 m)

B 海域:富山湾(水深:0~1511 m)

「しんかい 6500」による潜航調査は、①~④から3海域を選定

5. 実施内容

(1) 「しんかい 6500」による作業

- ① 海底堆積物および岩石の採取
- ② 深海用ラインレーザーとマニピュレータを用いた定方位海底堆積物採集
- ③ スラープガンを用いた生物群集の採取
- ④ 深海高解像度カメラシステムによる海底撮影
- ⑤ 下向きカメラによる海底面連続撮影
- ⑥ ビデオカメラ・スチルカメラによる海底観察
- ⑦ 採水器による海水採取

(2) 深海曳航調査システム「ディープ・トウ」による作業

しんかい 6500 の潜航に先立ち、ディープ・トウによる海底観測を行う。

(3) 「よこすか」による作業

- ① マルチビーム音響測深機による海底地形調査
- ② サブボトムプロファイラーによる海底下構造調査

6. 共同研究機関

・海上保安大学校(研究代表者 川村紀子 教授) ・富山県農林水産総合技術センター水産研究所 ・富山大学 ・愛知大学 ・日本大学 ・国立科学博物館 ・国土交通省 海上保安庁海洋情報部
--

7. その他

母船「よこすか」は、神奈川県横須賀市から出入港します(富山県内への寄港はありません)。出入港先である国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)内で取材を希望される際は、下記によりお手続きをお願いいたします。

国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)ホームページ https://www.jamstec.go.jp/j/ お問い合わせ→取材について

本研究は、日本財団海上保安研究基金の支援を受けて実施しています。

また、本航海は令和 8 年度東京大学大気海洋研究所研究船共同利用(よこすか YK26-06S 次航海、課題番号 S26-03)として実施されます。

なお、気象条件や調査の進捗状況等によって予定が変更となる場合があります。